

No.	16-7-1	場所	豊丘村神稲	次世代への継承キーワード	
名称	割出川の氾濫で流木や土砂が押し寄せた民家			地域コミュニティ	
災害現象	家屋の被災			河川	割出川
補足事項				支流	

概要

本来は梅雨の盛りのはずだが、田植えどころか水田の代かきもできないほど、春先からの少雨で水枯れの状態が続いた1961年（昭和36年）6月。ところが、23日夜から降り出した雨は「お湿り」どころか徐々に勢いを増し、下伊那郡豊丘村でも雨水を吸い込んだ山肌の土砂が部分的に大きな被害をもたらした。

中でも、県道伊那生田飯田線から4キロほど東側の山あいにあった河野地区の二丁集落では、27日午後の山崩れをきっかけに電灯が消え、村からの情報も途絶えた。土砂交じりで濁流と化した間沢川は、一晩の間に農地を根こそぎ飲み込み、川べりの幹線道路を全てえぐり取ってしまった。

●体験談：災害当時、豊丘村豊丘中学校3年生

無残にも、堤防が切れたため、田畑、人家が流され、そして土砂くずれがあり、そして又、尊い人命までも奪っていった。

私の家は、七反歩の田んぼが、後形もなく白河原になってしまった。流された時、私達子供には、寂しく、つまらない気持ちはあったが、さほど悲しまなかった。しかし、おとなの人達は、家族を養っていかなければならない義務から、本当に、真剣な問題であった。そして、田んぼは、流された人達同士で、相談して、田作りを計画した。

（「濁流の子」p.166より）

記録



割出川の氾濫で流木や土砂が押し寄せた民家

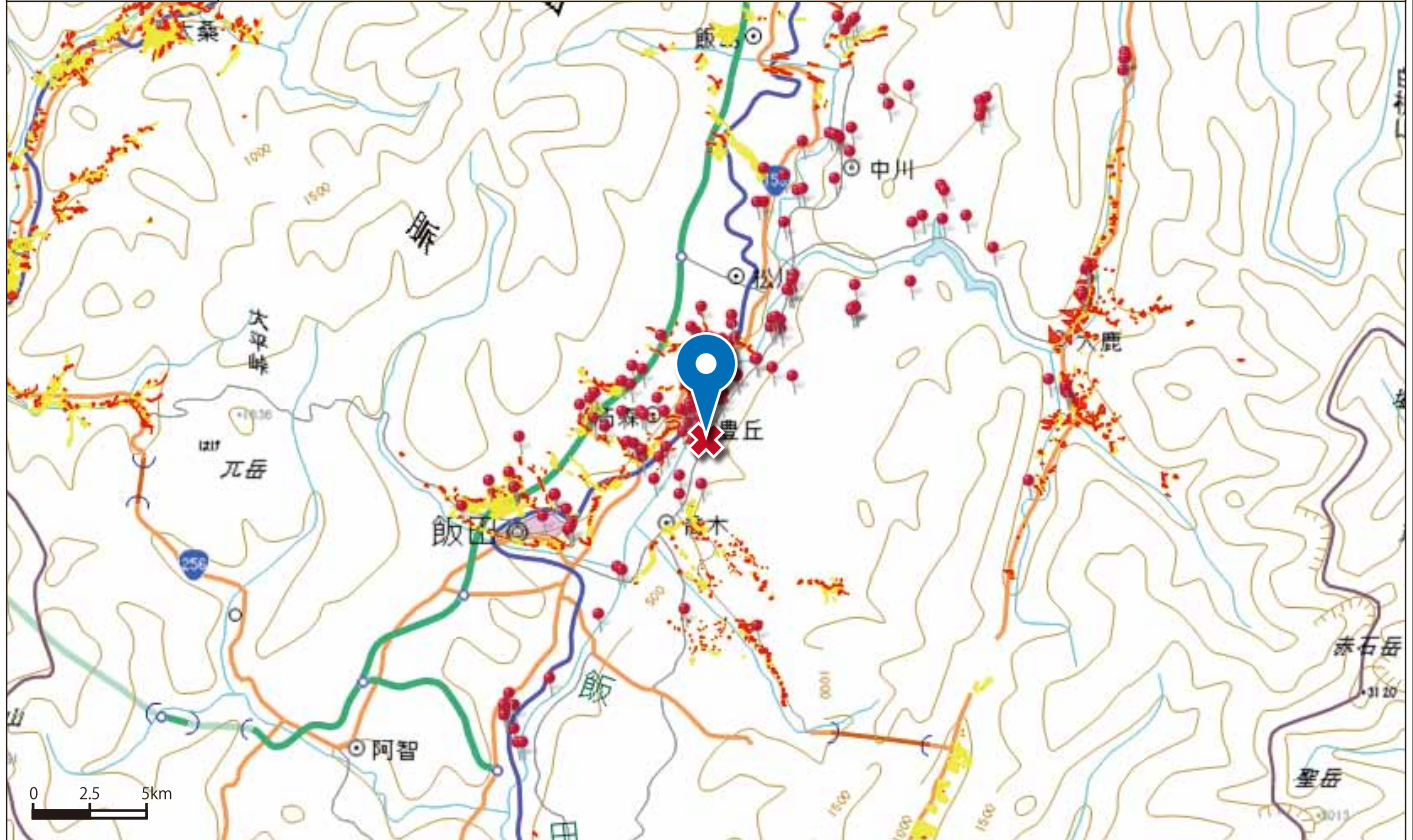
出典 「濁流の子」p.166

備考

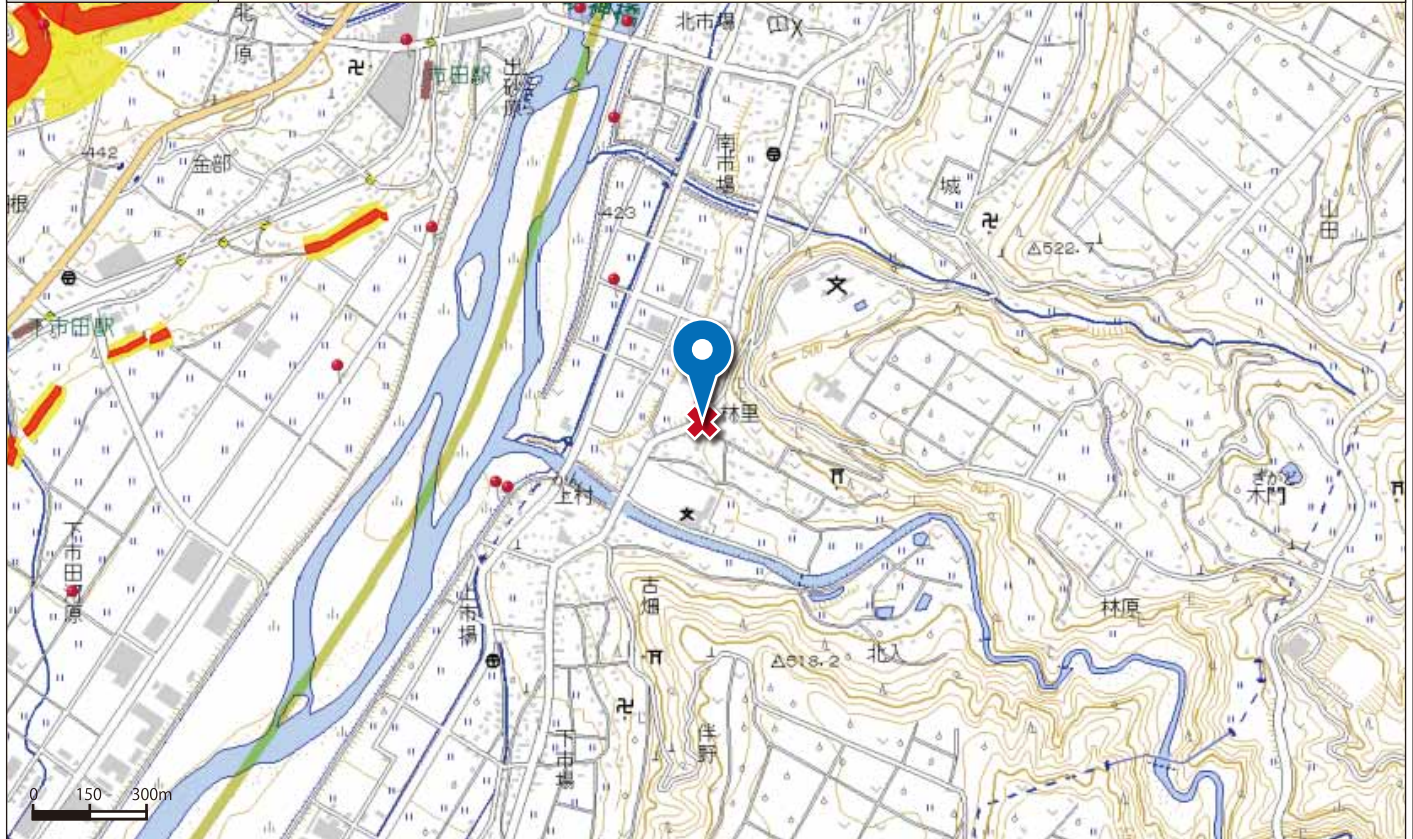
No.	16-7-1	場所	豊丘村神稲	緯度	35.542213
-----	--------	----	-------	----	-----------

名称	割出川の氾濫で流木や土砂が押し寄せた民家	経度	137.893564
----	----------------------	----	------------

地図 広域図



地図 詳細図



備考 上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通称：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。